ディジタル放送局システムのモデルステーション

日米欧で本格化しつつあるディジタル放送サービスの実現には，MPEG-２を中心とした映像・オーディオ符号化技術や多重化伝送技術を始め，メディアハンドリング技術，ディジタル伝送技術，情報処理技術など多くの先端技術を結集し，機器とシステムを総合的に検証し，さらに，サービス形態と内容を十分に検証した上で全体システムを構築していく必要がある。

当社では，ディジタル放送サービス及び関連する各種サービスに必要となる要素技術や機器・システムを開発して提供していくに当たり，ディジタル放送局システムのモデルステーションを構築した。このモデルステーションは，放送局から家庭までのトータルシステムであり，ベースバンド系，エンコーダ／プログラム多重系，メディアストレージ系，管理系，監視系，宅内系の各サブシステムからなる。

これにより，衛星・地上波・ケーブルの各種伝送メディアを介したディジタルHDTV，マルチチャネル放送，データ放送，電子番組案内などのディジタル放送各種サービスの検証が受信機も含めて可能となった。

今後も，サービスの拡張や別のアプリケーションへの適用に向け，段階的にシステムアップしていく予定である。

エンコーダ／プログラム多重系，監視系

ベースバンド系

メディアストレージ系（データ放送）

管理系（電子番組案内）

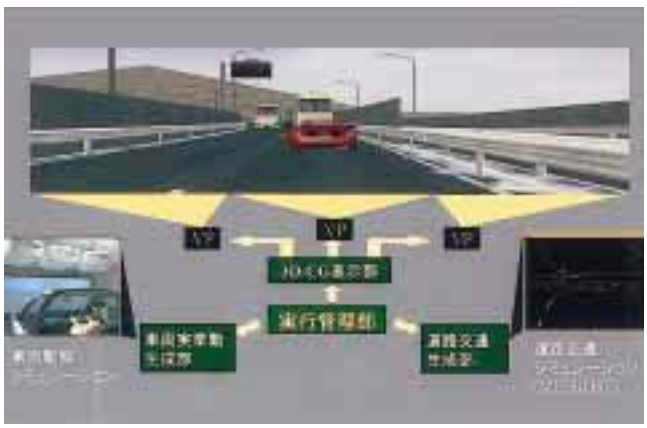
ディジタル放送局システムモデルステーション

ITS評価シミュレータ

高度道路交通システム（ITS）は，交通の円滑化，安全性向上，効率化，環境への負荷軽減などの実現を目指した極めて大規模なシステムであり，システム導入に先立って，十分なシステム設計や評価を行うことが必要である。そのため，三菱電機では，ITSを様々な局面から評価するITS評価シミュレータの開発を進めている。

このシミュレータは，道路交通シミュレータMELROSEの自律走行モデルに基づいてITS走行車両を生成するITS走行車両生成部，車両動態モデルに基づいて人が運転する車両の実際の挙動を生成する車両実挙動生成部，それらの結果を統合表示する三次元コンピュータグラフィックス表示部で構成され，リアルタイムに臨場感をもって様々なITS交通現象を生成できる。その結果，人と道路と車の一体的なシステムを評価することができる。

ITS評価シミュレータは，ITSのような大規模システムの設計と評価，導入アセスメント，道路管理者や道路利用者など関係者の共通認識ツールとして重要な役割を果たすものと期待される。



ITS評価シミュレータ